華北根拠地の文学運動—抗日戦期の成長と発展—

東洋人の行動と思想 25

華北根鞠地の文学運動—抗日戦期の成長と発展—

秋吉久紀夫

笠原一男・竹田　晃 編
東洋人の行動と思想 25
評論社

東洋人の行動と思想 25

東洋人の行動と思想 25 華北根拠地の文学運動

昭和51年8月20日 初版発行 ¥2,200

著者 秋吉久紀夫

発行者 竹下みな

印刷所 三倉印刷
製本所 有限会社友晃社製本

発行所 株式会社 評論社
(〒101) 東京都千代田区神田神保町2－16
電話代表 265)1961
振替東京 8－7294

(検印省略)

落丁，乱丁本は本社にてお取りかえいたします。 (A－1)

目次

I 初期の陝北ソ区の文学運動……11

1 紅軍内の文芸活動……11
八・一宣言　長征直後の瓦窯堡で
「松花江上」　丁玲『文藝在蘇区』

2 中国人民抗日劇社……20
エドガー・スノーのみた劇場　任天馬『活躍的屑施』
李伯釗、趙品三、危拱之など　活報劇とその由来

3 丁玲『一顆未出鎧的槍弾』……34
「小鬼の口からでたことば」　朱徳から聞いた話
『解放』週刊の発刊　丁玲の伝記

4 『二万五千里長征記』……39
盛況の応募文運動　『二万五千里長征記』の発禁
莫休の「槍橋」　『火綫上的一年』

5 成仿吾「写什麼」……42
上海に辿りついた馮雪峰　莫文驊論文のこと
二種のスローガン論争　成仿吾と呉奚如

6 陝北ソ区の文学を支えるひとびと……45

雲陽紅軍弁事処主任彭加倫　後方政治部宣伝部長徐夢秋
八路軍晋弁事処処長彭雪楓　袁国平の文芸理論

Ⅱ 根拠地の詩歌運動 …… 49

1 西北戦地服務団 …… 49

抗日民族統一戦線の結成　綱領と規約と構成
丁玲の戯曲「再会」　前線公演の収穫

2 根拠地の詩運動 …… 68

田間の長篇叙事詩『彼女のうた』　柯仲平の二つの長篇叙事詩
延安での朗誦詩運動　晋察冀の街頭詩運動

3 根拠地の歌唱運動 …… 95

唄をうたうひとりの女性　晋察冀軍政学校の学生たち
晋察冀抗日根拠地での歌唱　晋冀魯予抗日根拠地での歌唱

Ⅲ 根拠地における文学様相 …… 119

1 民謡と現実との相関 …… 119

抗戦民謡の発生　立ち上る纏足の女たち

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

第三次元の世界、地下壕作戦　豆を使っての民主的選挙
2　根拠地の演劇活動……137
晋察冀抗日根拠地で　晋冀魯予抗日根拠地で
山東軍区と晋綏軍区で　大劇上演と秧歌舞論争
3　「冀中一日」創作運動……166
晋察冀での識字運動　冀中区の新聞活動
晋冀魯予での識字と新聞　単行本『冀中一日』

Ⅳ　陝甘寧辺区の文学状況……179

1　民衆劇団について……179
何其芳の「陝西の芝居」　柯仲平と馬健翎
抗戦劇団と隴東劇団　「文協」と「文抗」
2　魯迅芸術学院について……194
魯迅と毛沢東　その音楽活動
その演劇活動　その美術活動
その文学活動
3　民族形式問題……209
丁玲と何其芳　中国的作風と中国的気風

『文芸戦線』と『中国文化』　王実味の理論など
4　雑文形式必要論 …… 218
王実味「野百合の花」　羅烽、艾青、蕭軍
丁玲「霞村にいた時」「夜」など
『解放日報』をめぐって
5　整風運動経過 …… 229
陝甘寧辺区の文化状況　「留守兵団の一日」創作活動
「古田会議決議案」の学習訓令　中国共産党中央宣伝部幹部会議

V　「延安の文芸座談会での講話」とその後 …… 245
1　「延安の文芸座談会での講話」 …… 245
延安の楊家嶺で　蕭軍の提出した意見書
艾青の提出した意見書　毛沢東「文芸講話」の意義
2　新歌劇と京劇改革 …… 257
魯芸の『兄妹開荒』　『白毛女』の誕生
『逼って梁山に上らしむ』と延安平劇院
『三たび祝家荘を打つ』
3　下郷運動と二つの作品 …… 271
陝甘寧辺区文化工作委員会の発足

中国共産党文芸工作者会議　柯藍の『バケツの呉貴の物語』
李季の『王貴と李香香』

4　抗日根拠地の作家たち——趙樹理と田間——……286
抗日根拠地での文芸講話　晋冀魯予辺区の文化状況
趙樹理の三つの作品
田間の長篇叙事詩『車ひきの石不爛』など

5　人民大衆の創作活動……317
『視線を彼方へ』と『窮人楽』　晋冀魯予辺区の村劇団
陝甘寧辺区文教大会　留守兵団「原稿書き」運動

参考文献……335
関係年表……343
索　引……356
あとがき……357

写真・地図・図版　目次

版画、李季『王貴と李香香』周令釗……口絵
『白毛女』—洞窟でめぐりあった喜兒と大春—上海舞踏学校の公演…口絵
工農紅軍長征図……12
陝北ソビエト区地図……14

丁玲―西北戦地服務団主任時代……18
延安―丁玲『陝北風光』の表紙……23
赤い劇場……25
丁玲『発射されなかった銃弾』……34
『解放』所掲の丁玲「東村事件」……37
朱笠夫編『二万五千里長征記』……39
激戦の濾定橋……41
保定西北方から晋察冀抗日根拠地北岳地区を望む……49
日本の強盗を東京へたたき出せ・楽譜……60
文芸雑誌『七月』……64
田間……68
晋察冀抗日根拠地の中心、阜平の全貌……77
小作料と利子の引き下げに喜ぶ抗日根拠地の農民……78
晋察冀抗日根拠地図……80
晋察冀抗日根拠地で発行された各種の詩誌……82
陳輝の詩稿……87
版画・包囲戦・劉曠……93
救亡委員会の機構……97
版画・地雷を埋める民兵・郭鈞……100
冬まぢかのばった・楽譜……105
日本軍の華北の望楼……106
学習のうた・楽譜……114
抗日根拠地の村の入口で通行証検査をする児童団員……115

抗日根拠地の水上遊撃隊……120
民兵組織系統表……122
版画・日本軍に食糧を奪われるな・彦涵……125
版画・望楼破壊・鄒雅……127
抗日根拠地の村の地下壕からの攻撃……130
版画・豆での選挙・彦涵……133
版画・秧歌……139
晋察冀抗日根拠地で「日出」を公演する西北戦地服務団……142
太行区文芸工作者幹部大会・一九三九年山西省武郷県……150
山東軍区地図……154
晋綏軍区地図……157
晋察冀抗日根拠地で発行されていた『晋察冀日報』……162
一九四四年に晋冀魯予抗日根拠地で発行された『晋冀魯予日報』……171
孫犂の『文芸学習』……174
抗日戦争時期の中国共産党中央根拠地・陝甘寧辺区地図……180
馬健翎『大家喜歓』……186
柯仲平……192
柯仲平『延安から北京まで』……193
版画・魯迅先生像・力群……195
版画・延安魯迅芸術学院・力群……198
何其芳……207
文芸雑誌『文芸戰綫』……214
文化雑誌『中国文化』……216

艾青とその詩稿 …… 220
丁玲「霞村にいた時」修正前原文 …… 224
抗日戦争時期根拠地の部隊の大生産運動 …… 232
紅第四軍第九回党代表大会決議案 …… 236
抗日戦争時期の中国共産党中央の所在地・延安の楊家嶺 …… 246
一九三八年抗日軍政大学で講義中の毛沢東 …… 251
版画・白毛女（挿絵） 劉曠 …… 263
生活・読書・新知聯合発行所刊『三たび祝家荘を打つ』 …… 269
海燕書店刊、『陝北民歌選』 …… 274
韓起祥編『劉巧団円』 …… 279
柯藍『バケツの呉貴の物語』 …… 282
李季『王貴と李香香』 …… 283
晋冀魯予抗日根拠地図 …… 289
晋冀魯予抗日根拠地太行山区の黄烟洞を望む …… 290
趙樹理 …… 296
版画・土地測量・牛文 …… 298
版画・趙樹理『李有才板話』（挿絵） 羅工柳 …… 299
田間『車ひきの石不爛』 …… 306
田間の筆跡 …… 309
晋察冀抗日根拠地阜平高街村劇団の上演する『窮人楽』 …… 321
版画・張治国班の文化学習・楊青 …… 326
抗日戦争時期解放区形勢図 …… 332

装幀　栃折久美子

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

華北根拠地の文学運動

――抗日戦期の成長と発展――

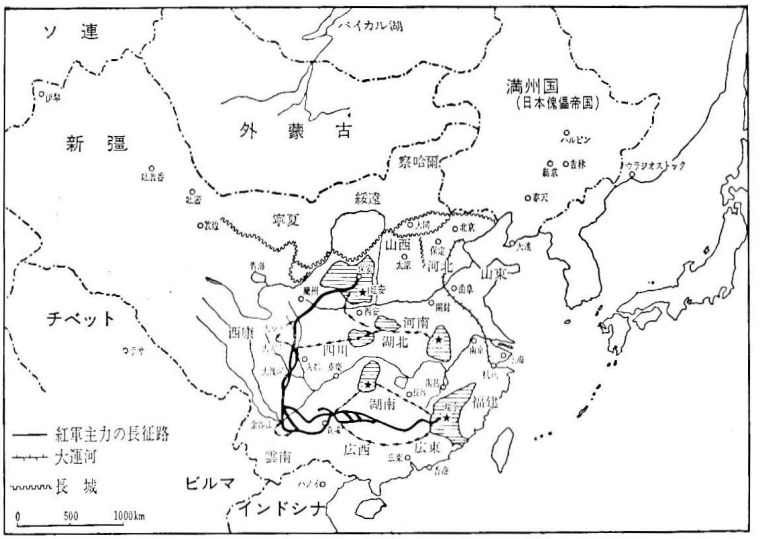
I　初期の陝北ソ区の文学運動

1　紅軍内の文芸活動

八・一宣言

一九三四年十月十六日、江西省雩都を出発した長征の紅軍第一方面軍は、翌一九三五年七月から八月、大雪山を越え、岐山山脈を踏破していたが、折しもモスクワでは、七月二十五日から八月二十日にかけて、『コミンテルン第七回大会』が開催されていた。その八月一日に、刮目すべき『八・一宣言』が発表されたのである。この宣言は、正確には『抗日救国のために全同胞に告げる書』となっていて、中国ソビエト政府・中共中央発であった。この文の重要な部分を次に抄出しよう。

「いま国家・民族の滅亡という大禍が目前に迫っている時に当たり、共産党とソビエト政府は改めて全国同胞に向かって次のように呼びかけるものである――たとえ、各党派の間に過去・現在にわたってどんなに政見と利害に相違があろうとも、たとえ各界の同胞間に意見もしくは利益にいかなる差異があろうとも、たとえ各軍隊の間に過去・現在においていかなる敵対行動があろうとも、『兄弟牆に鬩げども、外その侮りを禦ぐ』という真の覚悟を、すべてのものがもたなければならない。それにはまず、すべてのものが内戦を停止し、すべての国力（人力、物力、財力、武力など）を集中して、抗日救国の神聖なる事業のために奮闘しなければならない。ソビエト政府と共産党はとくに重ねて丁重に宣言する――国



工農紅軍長征図

民党の軍隊がソビエト区に対する攻撃行動を停止しさえすれば、またいかなる部隊であれ、それが対日抗戦を実行しさえすれば、彼らと紅軍との間における過去および現在のいかなる古い仇や宿怨にもかかわらず、また彼らと紅軍との間にある内政問題上のいかなる意見の食違いにもかかわらず、紅軍はただちにこれに対して敵対行為を停止するだけでなく、これと親しく手をたずさえてともに救国することを願うものである」(日本国際問題研究所中国部会編「中国共産党史資料集」第七巻一九七三年七月勁草書房刊。五二四頁)。

つまり、日本にとって、中国との戦争状態に入るのは、一九三七年七月七日と考えているが、中国(中国共産党)にとっては、この宣言は、実質的な抗日人民戦線の大憲章として、以後の抗日戦争の契機となったものであり、これを発端として戦線は、全中国の問題として燎原の火のように燃えあがっていったのである。

いま、『華北根拠地の文学運動——抗日戦期の成長と発展——』を眺めるにあたって、わたしは筆を

ここから書きはじめる。

長征直後の瓦窰堡で

ところで、紅軍第一方面軍は十月二十日に陝西省に入り胡宗南部隊、回教軍部隊、旧東北軍との激戦の末、一九二七年以来陝西省北部で戦っていた劉志丹の遊撃隊と合流した。さらに十一月下旬には、徐海東指揮の紅第十五軍団と東村一帯で合流し、直羅鎮での戦闘に大勝して瓦窰堡に落ち着いた。

十二月二十五日中共中央は、瓦窰堡で、抗日民族統一戦線の戦略を決定し、一九三六年二月、紅第一軍団と第十五軍団は黄河を渡って、太原近くまで七十五日間の東征をおこない、五月中旬には紅第一軍団（林彪軍長、聶栄臻政治委員）と紅第十五軍団（徐海東軍長）は、さらに西征を開始し、十月八日会寧、静寧地区で紅第二方面軍（賀竜指揮）、第四方面軍（朱徳指揮）と合流した。ここに全紅軍部隊の長征は完了したのであった。

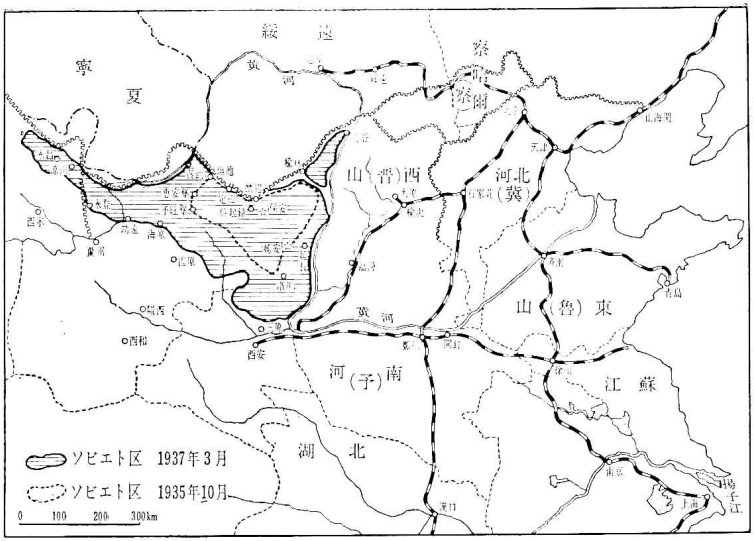
これらの戦闘の間の、紅軍内の文芸活動については、次のことが知られている。

一九三六年五月中旬、七営川、清水河で旧東北軍（何柱国部隊）に、救国宣伝教育をおこない『流亡三部曲』や『故郷へ引きかえそう』、『中国人は中国人を打つな』などの歌をうたった。（『星火燎原』第四巻一〇三頁）

『流亡三部曲』は、「松花江のほとり」、「家を離れて」、「前線へ」の三部からなり、作詞江陵、作曲劉雪庵、張寒暉である。

松花江のほとり

ぼくの故郷は東北の松花江のほとりだ、
そこには森や炭坑がある、



陝北ソビエト区地図

それにあの見渡すかぎりの大豆や高粱がある。
ぼくの故郷は東北の松花江のほとりだ、
そこにはぼくの兄妹がいる、
それにあの年老いた父や母がいる。

九月一八日、あの悲惨な日から、
九月一八日、九月一八日、あの悲惨な日から、
九月一八日、九月一八日、あの悲惨な日から。

ぼくは故郷を脱れ出た、
あの無尽蔵の宝を手離して、
来る日も来る日も山海関以西を流浪するばかり。

いつの日にぼくはあのいとしい故郷へ戻れるだろう、
いつの年にぼくはあの無尽蔵の宝をとり戻せるだろう、
父や母といつまた一緒に顔を見合わすことができる

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook